様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月１９日現在

機関番号：４２６９８
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５２０１６５
研究課題名（和文）　江戸～大正期の常磐津節演奏家研究

研究課題名（英文）　Research into *Tokiwazu-bushi* Performer of the Edo-Taisho era.

研究代表者
前原　恵美（MAEHARA MEGUMI）
有明教育芸術短期大学・芸術教養学科・准教授
研究者番号：70398725

研究成果の概要（和文）：(1)江戸～大正期の常磐津節演奏家情報の整備と公開のために、町田嘉章によるメモの翻刻と公開を行っている（来春に完了予定）。(2)常磐津英寿氏へのインタビューを継続的に行った。(3)(2)の中で明らかとなった、常磐津林中使用の浄瑠璃本（盛岡市先人記念館所蔵）の基礎調査を行い、『常磐津林中の音楽活動の軌跡―盛岡市先人記念館所蔵林中本を手掛かりに』（有明双書第１シリーズ、武久出版、2013 年３月）として出版した。

研究成果の概要（英文）：
(1)For the arrangement and exhibiting of *Tokiwazu-bushi* performer data of the Edo-Taisho era, I published two articles with the reprint of the memo by Machida Kasho (to be completed next spring). (2) I conducted interviews with Tokiwazu Eiju continuously (it is in progress now). (3)I published a "The Trace of Tokiwazu Rinchu music activity—Using the *joruri-bon* that he used on the stage—"(Ariake library series I , Takehisa publication, March, 2013).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：美学・芸術諸学
科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般
キーワード：常磐津節、豊後系浄瑠璃、三味線音楽、伝統芸能、日本音楽、演奏家研究

１．研究開始当初の背景
(1)背景
　先行研究として常磐津節の歴史については、岩沙慎一の『江戸豊後浄瑠璃史』（くろしお出版、1968 年）ほか、町田嘉章の雑誌論文「豊後節の禁止とその再建運動」(『三味線楽』5 月号、1937 年)、「江戸における豊後節の停止と再建の前後」(『日本・東洋音楽論考』、音楽之友社)、「豊後節の考証と研究」(「邦楽の友」昭和 36 年 6 月号～昭和 50 年 2 月号、1961～75 年）などがある。また作品研究等をまとめた論文集として安田文吉の『常磐津節の基礎的研究』(和泉書院、1992 年)、音楽分析としては、部分的ながら常磐津節を他の三味線音楽と一元的に比較分類した「三味線声曲における旋律型の研究」(『東洋音楽研究』

第 47 号第 2 分冊、1982 年)、また拙論「常磐津節『老松』の旋律型研究」(『東京藝術大学音楽学部紀要』第 26 集、2001 年) と「常磐津節『老松』における旋律型研究(補遺)」(『東京藝術大学音楽学部紀要』第 28 集、2003 年) などがある。

(2)動機

常磐津節演奏家の重要な情報源として、これまで歌舞伎研究者を中心に番附や正本の整理はすでにかなり進んでいる。一方で、これ以外の情報源として研究代表者は、ここ数年、「吉原細見」巻末に掲載された男芸者名寄に注目してきた。また、町田嘉章による『常磐津太夫芸歴列伝』『常磐津家元伝記』『三弦手列伝』清書コピー (以下「町田メモ」) の資料的価値は質・量ともに広く公開されるべきものと判断した。そこで、町田メモを翻刻し、先述の男芸者名寄の情報を踏まえて公開することで、常磐津節演奏家研究の端緒としたいと考えた。

２．研究の目的

(1)常磐津節演奏家研究の基礎資料としての「町田メモ」の確立

町田メモ自体の検証を行い、その資料としての有効性の提示と町田氏の研究における常磐津節演奏家研究の位置づけを行う。

(2)町田メモの傍証と補足

町田メモの傍証による検証および町田メモに含まれない時代、演奏家の情報収集・検証・補足を行う。

(3)(1)・(2)を総合した常磐津節演奏家研究の情報公開

町田メモを踏まえて、研究代表者の提案する体裁での常磐津節演奏家情報の整備と公開を行う。

以上により江戸～大正期の常磐津節演奏家研究の基盤とし、その後の常磐津節研究につなげたい。

３．研究の方法

(1)「町田メモ」の翻刻作業

研究代表者による町田メモの翻刻・校正および、研究協力者による入力作業を行った。

(2)町田メモの検証および補足調査

①先行研究資料、「吉原細見」男芸者名寄との照合と検証を行った。その成果の一部を (社) 東洋音楽学会大会で口頭発表した (５.〔学会発表〕②)。

②明治～大正期の情報を補うため、常磐津英寿氏へのインタビューを継続的に行い、情報収集を行った。インタビューに際しては、インタビュー補助を継続的に常磐津文字兵衛氏に依頼し、常磐津英寿氏に、年代を追って伝え聞き及んでいること等を話していただき、研究代表者が質問を挟みながらメモを取る形で進めている。なお、当人の許可を得て、IC レコーダーによる録音と、デジタルビデオカメラによる記録撮影も行っており、場合によって、個人蔵の資料を見せていただいた折にはデジタルカメラで撮影している。デジタル機器操作は、研究補助者に依頼した。

また、インタビューの継続とともに、インタビュー内容を録音から文字起こしし、当人に確認してもらう作業を今後も続行する。

なお、後述(4)の学会発表に向けては、当人の確認、了承を得た上でこのインタビューを反映させた。同様に、(4)の図書執筆の際にも、インタビュー記録を、許諾を得て活用した。

(3)(1)・(2)を総合した情報の提示

研究代表者の提示する体裁での、(2)を踏まえた町田メモ公開のための一覧表作成を行い、翻刻と併せて有明教育芸術短期大学紀要で２本にわたって公表(紙面の都合により、来春３本目をもって公表終了予定。詳細は５.〔雑誌論文〕①、②)。そのための準備および執筆を行った。

(4)新出資料・常磐津林中使用の浄瑠璃本の調査と、林中の音楽活動についての補足調査

(2)②を進める中で明らかとなった、常磐津林中使用の浄瑠璃本 (盛岡市先人記念館所蔵) の背景と基礎調査、常磐津林中についての補足調査を行い、これらを著作にまとめるための準備および執筆を行った (５.〔図書〕)。また、これに先立ち、(社) 東洋音楽学会大会の口頭発表で現況報告を行った (５.〔学会発表〕①)。

その際、浄瑠璃本調査のために、盛岡市先人記念館で３回にわたる調査を行い、一部資料のデジタルカメラによる撮影と、採寸等を含めた基礎調査を行ったが、入力や撮影は研究補助者とともに行った。

また、林中の盛岡隠棲時代の足跡を辿るため、国立国会図書館所蔵の「岩手公報」等を、該当期間刊行のものに関してマイクロフィルムで閲覧し、調査した。

４．研究成果

(1)町田メモの翻刻および、その傍証結果の公開

この公開により、町田メモの存在を周知するとともに、先行研究や「吉原細見」男芸者名寄せとの照合により、その資料の有効性を

紙面で継続的に主張している（５.〔雑誌論文〕①、②)。いずれも、目的や構成を示したのちに翻刻、先行研究や「吉原細見」を含む他の資料との照合を反映させた一覧表の提示、一連の作業を踏まえた小考から成り、今後これらの資料を活用して演奏家研究を進める上でのポイントを整理した。

(2)傍証資料としての「吉原細見」男芸者名寄の有効性を検証

「吉原細見」男芸者の名寄に見られる、常磐津節演奏家についての検証を行い、(社) 東洋音楽学会(現･一般社団法人 東洋音楽学会。以下同様）大会の口頭発表では、芝居出勤と同時期に男芸者としても活動していた常磐津節演奏家がいた可能性に言及し、男芸者の名寄が芝居に出勤している演奏家の情報を補足しうる史料であるとの見解を述べた（５.〔学会発表〕②)。

具体的には、三代目常磐津造酒太夫が名乗った淀太夫、出雲太夫、造酒太夫のいずれの芸名も同時期に芝居出勤記録と「吉原細見」男芸者名寄せに表れることから、詳細な検討を加え、次のように改名・襲名時期を推定した。

○淀太夫時代：？年～寛政２年 11 月
○初代出雲太夫時代：寛政２年 11 月～享和２年９月
○三代目造酒太夫時代：享和年 11 月～文政１年初秋

以上を受けて、芝居出勤記録と「吉原細見」を併用して検証することで、芸歴の空白が埋められる場合があることを明らかにした。

(3)常磐津林中使用の浄瑠璃本に関する調査を報告し（５.〔学会発表〕①)、さらなる補足調査と林中の音楽活動の追跡結果を併せて図書として刊行した（５.〔図書〕)

①常磐津林中使用の浄瑠璃本に関する調査を報告（５.〔学会発表〕①)

常磐津節演奏家情報補足のために行っていた常磐津英寿氏へのインタビューから、常磐津林中と木挽町派（英寿・文字兵衛家）の系累を明らかにし、林中が使用した大量の浄瑠璃本が英寿氏から盛岡市先人記念館に寄贈された経緯や、この浄瑠璃本の概要について調査し、（社）東洋音楽学会大会の口頭発表で現況報告をおこなった。

具体的には、常磐津林中浄瑠璃本の伝承経緯や資料の特徴について、以下の調査報告を行った。まず２代目文字兵衛のおばにあたるすずが林中に嫁いだことから、林中と文字兵衛家は、２代目文字兵衛が林中の三味線を弾いたのみならず、婚姻による親戚関係にあったとわかった。この縁で、林中浄瑠璃本が、林中の没後にすずを通して３代目文字兵衛、４代目文字兵衛（現・英寿）へ引き継がれ、上記記念館に寄贈された経緯が初めて明かになった。また芝居を含む演奏の〝実態〟や、芝居以外の演奏活動を知る資料として、実際の浄瑠璃本の画像を指し示しながら、その価値を指摘した。

②上記の補足調査と林中の音楽活動の追跡結果を併せて図書として刊行（５.〔図書〕)

『常磐津林中の音楽活動の軌跡―盛岡市先人記念館所蔵林中本を手掛かりに―』と題した本書は、林中使用浄瑠璃本（林中本）との出会いをきっかけに、その背景、概要、浄瑠璃本に記させた情報からわかる林中の音楽活動を整理し、芝居出勤の記録と照合することで、明治時代に名人の名を欲しいままにした常磐津林中の音楽活動を追った。また、林中が盛岡に隠棲していた時期の活動を補足するために、「岩手公報」(のち「岩手新聞」）を網羅的に調査し、林中の盛岡時代の動静を明らかにした。

本書の目次は以下のとおり。

はじめに　「常磐津林中」について／林中に関する先行研究／「林中本」との出会いと調査の経緯
第一章　林中本について　冊数と番号／番号の振られた時期とその意味／林中本伝承の経緯／林中本の体裁／林中本の資料価値
第二章　生い立ちから二代目松尾太夫時代　第一節 小和登太夫以前（生い立ち／常磐津節の稽古開始）　第二節 小和登太夫時代（小和登太夫としての歌舞伎出勤／名人・豊後大掾への弟子入り／初代松尾太夫のもとへ）　第三節 二代目松尾太夫時代（二代目松尾太夫襲名／松尾太夫の歌舞伎出勤と林中本 No.98《積恋雪関扉》について／松尾太夫の評価／松尾太夫時代の弟子と時勢の移り変わり）
第三章　小文字太夫襲名から離縁へ　第一節 七代目小文字太夫時代（小文字太夫襲名／林中本 No.2《つり女》について／林中本 No.1《乗合船恵方萬歳》をめぐる「代数」の問題／小文字太夫時代の歌舞伎出勤等／常磐津派と岸澤派の和解）　第二節 小文字太夫から林中へ（離縁と「小文字太夫」返上の理由／離縁の時期／「林中」としての東京公演記録／「林中」の由来と上方行き）　第三節 林中から宮古路国太夫半中へ（常磐津林中から宮古路国太夫半中へ／宮古路国太夫半中

としての関西地方での活動／再び東京へ）
第四章　宮古路国太夫半中の盛岡地方での活動　　第一節 盛岡行きの経緯（盛岡到着前からの評判）　第二節 明治二五年の動向　第三節 明治二六年の動向　第四節 明治二七年の動向　第五節 明治二八年の動向　第六節 師匠としての林中　第七節 帰京後の交流
第五章　　帰京後の林中時代
終わりに

上記の「はじめに」で林中本を調査することになった経緯を明らかにし、第一章で林中本の概要について説明し、第二、三、五章では主に林中本と芝居出勤記録、雑誌や新聞の記事等を照合して林中の足跡を追った。第四章にあたる盛岡隠棲時代の情報は、これまでほとんど皆無であり、林中本の情報からもこの時期の活動は不明であったため、当時、盛岡で発行されていた「岩手公報」（日刊）を網羅的に調査したところ、詳細な林中の記事が大量に見つかった。これらの情報をもとに第四章をまとめた。

以上により、今なお名人林中と称される常磐津林中の、意外にも知られていなかった音楽活動の軌跡が、かなり明らかになった。ただし、まだ疑問の残る点もあり、今後さらに林中本を詳細に分析する予定である。同時に他の資料発掘も課題である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
①前原恵美、常磐津節演奏家研究報告―町田史料の翻刻と検証②―、有明教育芸術短期大学紀要、査読有、第４号、2013、pp.93―114
②前原恵美、常磐津節演奏家研究(2)―『常磐津太夫芸歴列伝』の復刻と検証①―、有明教育芸術短期大学紀要、査読有、第3号、2012、pp.105―128

〔学会発表〕（計２件）
①前原恵美、常磐津林中自筆浄瑠璃本調査報告―盛岡市先人記念館所蔵本を中心に―、第 62 回東洋音楽学会大会（(社)東洋音楽学会（当時））、京都教育大学、2011
②前原恵美、芝居の演奏家と吉原の男芸者の兼業―三代目常磐津造酒太夫を中心に―、第 61 回東洋音楽学会大会（(社)東洋音楽学会（当時））、東京学芸大学、2010

〔図書〕（計１件）
前原恵美、武久出版、常磐津林中の音楽活動の軌跡―盛岡市先人記念館所蔵林中本を手掛かりに―、有明双書第１シリーズ、165

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
前原　恵美（MAEHARA　MRGUMI）
有明教育芸術短期大学・芸術教養学科・准教授
研究者番号：70398725

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし